

特別賞 「Share Booth」



Share Booth



敷地面積 320.9 m²
 建築面積 249.5 m²
 延床面積 578.4 m²

01 設計趣旨

名古屋市のまちづくりの基本方針である「Nagoya まちなかウォークアブル戦略」に基づき、居心地がよく回遊性が高い歩いて楽しいまちづくりを目指したシェアオフィスである。名古屋駅周辺の再開発とリニア中央新幹線の開通を見据え、ビジネスや交流の新たな拠点となる空間が必要であると考えた。特に、「起業家の集まるシェアオフィス」として、地域住民や他の起業家との交流、つながりを促進し新しいプロジェクトや出会いが生まれる場とする。そのため、まちにひらかれたマルシェを併設する。名古屋のものづくり文化を背景に、入居した起業家が自らのプロダクトやアイデアを販売することができる場を設ける。このマルシェは地域住民や来訪者を惹きつける回遊拠点となり、まち全体ににぎわいと交流を生み出す場となると考える。

02 背景

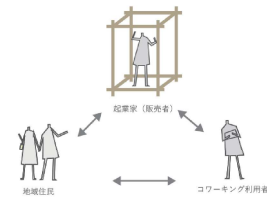
既存の中層雑居ビルは築50年を超えるRC造の建物ではあるが、構造体としての耐久性は依然高く、寿命を迎えるにはまだ早い。一方で、コンクリートは再利用が難しく、解体時には大量の廃棄物を生じる。また、建設費の高騰により建替えが容易でない現状を踏まえ、本建物は今後30年、さらにはそれ以上の期間活用される可能性が高い。そこで、増築部分には木造を採用し、循環型素材の活用や地域性を踏まえた設計を行うことで、50年、100年先を見据えた持続可能な建築のあり方を模索する。

03 敷地場所



名古屋市中村区名駅2丁目4-2-14 マルサンビル
 敷地周辺は、オフィスビルが点在しているので名古屋駅からの地域住民の出入りが多いことがわかっている。また再開発による東側駅前広場が再整備されることで敷地が拡張する。リニア中央新幹線開通による経済効果が見込まれ、より人の行き来が活発になることが予想される。敷地の西側は人通りが多いメインとなる道があるのに対して、北側は人通りの少ない路地のような道が広がる。また、既存ビルを囲うようにしてマンションやビルが立ち並んでいるため、陰陽がはっきりしている土地である。

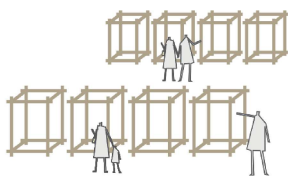
04 プログラム



マルシェで繋がる町と人

マルシェを介して起業家とコワーキングの利用者、またはものを売る起業家と地域住民の交流の場となる場を目指す。これにより、コワーキングの利用者と地域住民とが関わるきっかけづくりに繋げることも可能であると考える。

05 デザインコンセプト

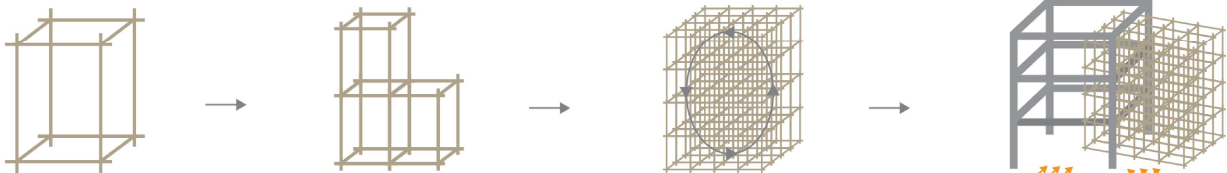


マルシェの空間構成要素

マルシェの空間構成として、出店しているブースが連続して配置されることで巡回する場が形成されている。

「連続性」 「回遊性」

06 ダイアグラム



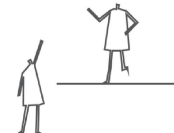
マルシェのブース

「連続性」からブースを既存躯体に合わせて上下左右に操作を行う。

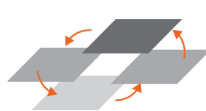
「回遊性」から構造内での移動が可能になる。

重なりができることで内の人と外の人との距離が縮まる。また視線・導線の誘導により人を導く。

07 断面プラン

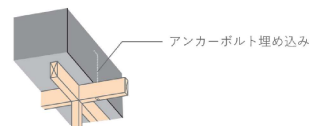


オフィス内での作業をアビールする場を設けるため、上下の視線誘導を行う。1Fから工房の様子を見せることで興味を持ってもらう。



既存躯体と増築を回遊する形状にするため、オフィス内に上下の導線計画を含ませる。この操作により各部屋にアクセスしやすいメリットもある。また階が上がるに連れ、よりパーソナルな空間が広がる。

08 デイテール



アンカーボルト埋め込み

09 素材の対比

硬度の対比



ヒノキ



コンクリート

密度の対比



ファイバーボード



金属

柔軟性の対比



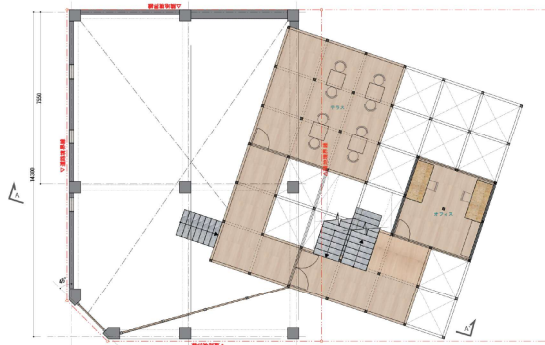
ファブリック



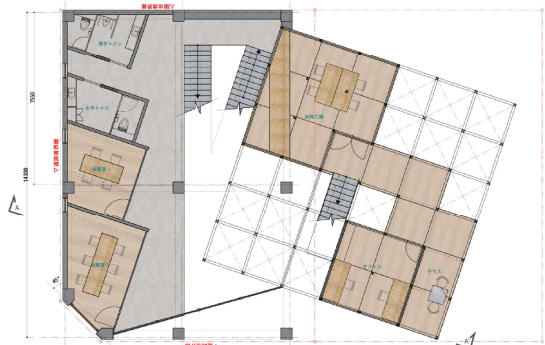
皮布



3F 平面図 S=1/200



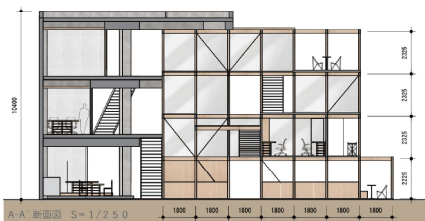
2.5F 平面図 S=1/200



2F 平面図 S=1/200



1F 平面図 S=1/200



A-A 断面図 S=1/250



西側立面図 S=1/250



南側立面図 S=1/250